

熊本大学大学院自然科学教育部情報電気工学専攻 式辞

みなさん、熊本大学大学院自然科学教育部情報電気工学専攻へようこそ。教職員一同を代表して、心よりお祝い申し上げます。

昨年5月8日、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の5類に移行し、季節性インフルエンザ並みの取り扱いとなりました。しかし、この場にいるほとんどのみなさんが、新型コロナウイルス発生、蔓延の影響で、4年前の入学式の中止を経験していますから、今日の入学式、入専攻式が少しでもそれを「上書き保存」できるものになればと思います。

ところで、みなさん、大学と大学院の違いは何でしょうか。大学は広く基礎的な知識を身につけ、そこから専門的な知識や能力の習得を目指す場所です。一方、大学院は、より高度で専門的な知識・能力を身につけ、とりわけ自立した研究遂行能力も習得する場です。また、大学院での学び・研究を通して、学術・科学技術の発展に貢献するという目的もあります。

本専攻も、「不思議なものに対する飽くなき好奇心を持ち、論理的探求心の旺盛な人。様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人。工学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人。情報電気電子分野のものづくり現場で科学技術や知的財産をもって貢献したい人。国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者に成長しようという意志を持つ人」を求め、というアドミッションポリシーを掲げています。

また、本専攻のディプロマポリシーで、習得すべき知識・能力は「電気工学・電子工学・情報工学分野の高度専門知識。自発的探求心、論理的思考能力、課題発見・解決能力、表現能力。多様な分野に対応できる柔軟性。国際的な場におけるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力。地域産業について十分理解し、実践力、社会性により地域社会に貢献できる能力」であるとしています。

みなさんは、本専攻のアドミッションポリシーに適う人物として今日この場におり、標準的には2年間という時間をかけて前述の知識・能力を習得し、ディプロマポリシーを満足できるよう、すなわち修士の学位を取得できるよう、活動していくことになります。

卒業研究は、実質的には半年程度の時間しかありませんでしたし、高専編入のみなさん以外は研究そのものが初体験だったということもあり、もどかしい思いもたくさんしたのではないかと思います。博士前期課程の研究は、卒研よりも長い時間をかけられますし、みなさん自身の知識、能力も向上していますので、より納得のいく成果を目指して、研究にまつわる喜怒哀楽を堪能してもらいたいと思います。

一方で、社会人として大学から巣立つ将来も現実味を帯びてくる2年間になります。いうまでもなく、様々な観点で世界は激変しています。この地熊本においても、TSMCの進出が起爆剤となり、百年に一度の好機到来と盛り上がっていますが、これらは経済安全保障を含む多くの複雑な問題と結びついていると考えられます。加えて、AIの急速な発展は、労働のあり方を根底からひっくり返す可能性があるばかりでなく、生成AIに至っては高度化するにつれ、何が うそ で何が まこと が非常にわかりづらくなるという状況をも生成してしまいました。

工学の工という字は、にぎりのついた「のみ」、おの、差し金、定規といった工具の形からきている象形文字ですが、二本の横棒で表現された「天」と「地」を結びつける「人」の営みを表現するという寓意文字の側面もあります。みなさんは、工学という学問に身を置く立場にいますら、使用者としてもの や こと を使いこなすだけでなく、技術者としてもの や こと を作りこなす人間でなければなりません。その際、みなさんには、人類が生き残っていくためにも、本質は何なのかということについていつも自身に問いかけながら、研究活動はもとより、日常生活を送ってもらいたいと思います。その問いかけに対し、答えを見出そうとし続けることが、みなさんをアップデートし、激変する環境に適応していくことにつながると考えますし、ひいては世界中に点在する多くの問題の解決につながっていくことになると信じてやみません。

最後はやや大仰なことを述べたかもしれませんが、みなさんの博士前期課程時代という人生の一部が、充実したものになることを祈っています。入学、おめでとう！

令和6年4月4日

熊本大学大学院自然科学教育部情報電気工学専攻長 伊賀崎伴彦